

# 令和7年度 授業改善推進プラン

## 授業で高めたい能力

すららの活用		教材の工夫 (WS)			主体的な部分	
国語 すらら 復習による内容定着		英語 個別最適 すららに選べる課題を設定。→達成感・挑戦心につなげる		社会 学習シートを工夫→なぜ社会的事象が起きたのか考えさせる	英語 ライティングの確認リストを用意	音楽 知覚と感受の関わりを言葉で表す習慣
理科 PDCAサイクル 理論立てて説明	理科 日常と学習内容の関わり→単元の振り返り	音楽 前時の復習・小テスト	美術 身に付ける能力、社会とのつながりを意識させる	技術 製作後の使用を想定させた教材開発	数学 実物教材とICTの活用→視覚的に理解できる授業	家庭科 オンライン上でわかるまで取り組ませる
					保健体育 AIスマートコーチの活用 自身での目標設定	家庭科 生活と結び付けた課題設定 体験的な活動

## もくじ

教科：国語.....	1
教科：数学.....	2
教科：英語.....	3
教科：社会科.....	4
教科：理科.....	5
教科：音楽.....	7
教科：美術.....	7
教科：保健体育 .....	8
教科：技術・家庭（技術分野） .....	9
教科：技術・家庭（家庭分野） .....	10

## 教科：国語

学年	<根拠となる学力調査・授業アンケート等> ■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題	○授業改善の方策 ・具体的な取組
7学年	<学びに向かう力等に関する意識調査より> ■漢字を意味とともに覚えたり、類義語や対義語と関連付けて覚えようとする項目が低かった。	○単語の意味調べ活動を充実させる。 ・新出語句の意味調べシートを作成し、併せて類義語や対義語を調べさせる活動を取り入れる。  ○授業の取組状況を観察し、適宜声掛けをしていく。

	<p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■板書や人の意見などをメモする習慣が身についていない。</li> </ul> <p>&lt;学力調査や定期考查の結果より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■漢字の書き取りや文法の知識などの正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通して漢字テスト等を実施する。</li> <li>・毎週漢字テストを行い、長期休業明けには漢字50問テストを行い、漢字の書き取りの力を高める。</li> <li>○復習や振り返りの時間を充実させる。</li> <li>・文法の授業では、授業の開始に前時までの復習を行い、理解したうえで授業を進めていく。</li> <li>・A I教材すららを活用し、復習の為の課題を確保する。</li> </ul>
8 学 年	<p>&lt;学びに向かう力等に関する意識調査より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■漢字を意味とともに覚えたり、類義語や対義語と関連付けて覚えようとする項目が低かった。</li> <li>■文章を読んで理解したことや考えたことを他の人に伝える項目が低かった。</li> </ul> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■知識事項が定着していない。</li> </ul> <p>&lt;学力調査や定期考查の結果より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■文学的文章の読解や文章を書く問題などの正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単語の意味調べ活動を充実させる。</li> <li>・新出語句の意味調べシートを作成し、併せて類義語や対義語を調べさせる活動を取り入れる。</li> </ul> <p>○復習や振り返りの時間を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文法の授業では、授業の開始に前時までの復習を行い、理解したうえで授業を進めていく。</li> <li>・A I教材すららを活用し、復習の為の課題を確保する。</li> </ul> <p>○書く活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章単元の終わりに自分の考えを書く活動を多く取り入れる。その際に根拠を基に書くことを指導し、論理的に文章を展開できるようにしていく。</li> </ul>
9 学 年	<p>&lt;学びに向かう力等に関する意識調査より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■漢字を意味とともに覚えたり、類義語や対義語と関連付けて覚えようとする項目が低かった。</li> </ul> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■文章を読んで要旨を捉える活動が時間が要する。</li> </ul> <p>&lt;学力調査や定期考查の結果より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■漢字の書き取りや文章を書く問題に関する正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単語の意味調べ活動を充実させる。</li> <li>・新出語句の意味調べシートを作成し、併せて類義語や対義語を調べさせる活動を取り入れる。</li> </ul> <p>○要旨を書く際に時間の制限を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の初読の際に重要だと感じたところに印をつけさせ、時間内に要約や情報を吟味する課題を行う。</li> </ul> <p>○年間を通して漢字テスト等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週漢字テストを行い、長期休業明けには漢字50問テストを行い、漢字の書き取りの力を高める。</li> </ul> <p>○書く活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章単元の終わりに自分の考えを書く活動を多く取り入れる。その際に根拠を基に書くことを指導し、論理的に文章を展開できるようにしていく。</li> </ul>

## 教科：数学

学 年	<p>&lt;根拠となる学力調査・授業アンケート等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</li> </ul>	<p>○授業改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組</li> </ul>
7 学 年	<p>&lt;式根島学園テスト・定期考查より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■式根島学園テスト「数と計算」の領域では、全国平均と比較して5ポイント低い結果となった。問題別に分析すると小数や分数を含む四則計算に誤答が見られ、特に繰り上がりの処理や帶分数の扱いに課題があることが分かった。また、定期考查の「文字と式」の単元においても、整数以外の数を用いた計算問題で誤答が多く見られ、同様の傾向が見られた。</li> <li>■式根島学園テスト「平面図形」の領域において、「合同な図形をすべて選ぶ」問題では、裏返した図形を合同と認識できず、向きが同じ拡大図を誤って選択していた。このことから</li> </ul>	<p>○小数・分数の計算力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な四則演算の復習を継続的に行なながら、特に小数や分数を含む計算に重点を置く。また、計算過程を丁寧に書く練習を通じて、生徒自身が誤りに気づき、修正できる力を育てていく。これにより、計算力の向上だけでなく、論理的思考力や自己修正力も養っていく。</li> </ul> <p>○実物教材とICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年でも平面図形の「合同」を扱うことから、「図形の移動」の単元において、合同の基本定義を繰り返し確認する機会を設ける。また、図形を紙で作成し、実</li> </ul>

	<p>合同の定義や裏返しによる図形の理解が不十分であることが読み取れる。</p>	<p>際に動かすことで「形と大きさの変化がない」ことの体感や、デジタル教材を用いて、図形の移動・回転・鏡映を視覚的に理解できる授業を展開する。</p>
8 学 年	<p>&lt;式根島学園テストより&gt;</p> <p>■ 式根島学園テスト「空間図形」の領域では、全国平均と比較して 23 ポイント低い結果となった。特に表面積や体積を求める式を選ぶ問題において誤答のばらつきが見られた。これは、基本的な求め方の理解が不十分であることに加え、生徒自身が立てた式と与えられた式が等しいことを判断する力が不足していることを示している。</p> <p>&lt;アンケート結果より&gt;</p> <p>■「確実にできるようになるまで繰り返し学習している」と回答した生徒は半数に満たず、継続的な学習習慣が十分に定着していないことがうかがえる。また、学習時間に関する質問では、1日あたりの学習時間が 1 時間未満と回答した生徒が多く、家庭学習の量が全体的に不足いる傾向が見られた。</p>	<p>○式の意味理解と比較力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異なる形で表された式が同じ意味をもつことを具体的な数値を代入することで確認したり、生徒自身が考えた式と別の形の式を比較する演習を取り入れ、式の構造を読み取る力が高まる課題を設定する。</li> </ul> <p>○学習習慣の定着を図るための期限設定と、繰り返し可能な学習形態の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習のきっかけづくりとして、週の特定の曜日に課題を設定し、継続的な学習習慣を促す。</li> <li>AI ドリル（すらら）を活用し、個別のつまづきに応じた問題を繰り返し解くことができる環境を整える。</li> </ul>
9 学 年	<p>&lt;全国学力調査・定期考査より&gt;</p> <p>■ 全国学力調査の「数と式」領域において、今年度の正答率は 30% であり、昨年度の 9 年生と比較して 16 ポイント低下している。特に、数の性質を用いた説明に誤りが多く見られ、定期考査の「平方根」単元における記述問題でも、完答できていない状態である。</p> <p>&lt;式根島学園テスト・復習確認テストより&gt;</p> <p>「関数」の領域において、式根島学園テストおよび復習確認テストの両方で正答率が約 30% と低調であった。特に、交点座標を求める問題や、座標平面上の図形に関する問題に誤答が多く見られた。</p>	<p>○数の性質に関する基礎的な理解の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数の基本的な性質を扱う演習を増やし、説明問題をペアで話し合う活動を取り入れ、言語化力を育成する。また、完答できていない記述問題について、式と説明を組み合わせる練習を行っていく。</li> </ul> <p>○復習学習の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の単元にまたがる問題では、学習から時間が経過した内容が含まれる場合、正答を導くのが難しくなる傾向にある。そこで、現在学習している単元だけでなく、過去に学習した内容を定期的に復習する時間を設けたり、課題の中に復習の機会を組み込んだりすることで、理解の定着を図る。</li> </ul>

## 教科：英語

学 年	<p>&lt;根拠となる学力調査・授業アンケート等&gt;</p> <p>■ 学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取組</li> </ul>
7 学 年	<p>&lt;学びに向かう力等に関する意識調査より&gt;</p> <p>■ 「英語の授業が分かる」と回答する割合が高いが、「英語の授業が得意」という回答の割合が低い。</p> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■ 授業中に楽しいという感覚はあるものの、実際の英語活用に対して不安感を持つ生徒が多い。</p> <p>&lt;学力調査や定期テストの結果より&gt;</p> <p>■ 長文読解や並べ替え問題の正答率が悪い。</p>	<p>○理解から活用へのステップを強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単に「分かる」段階に留まらず、使う・試す活動を増やすことで「できる」という感覚を育てる。 →ペア・グループでの会話活動、ロールプレイ、クイズ形式を取り入れ「分かる知識」を即「使う力」に転換する。</li> </ul> <p>○小さな成功体験の積み重ね</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な発話やライティングで成功体験を味わい、自信＝得意意識に繋げる。 →授業ごとに「今日できるようになったこと」を書かせる。小さな達成感を可視化し、得意意識に繋げる。</li> </ul> <p>○「文構造を意識して読む力を育成する」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単語や文法の知識を点的に扱うのではなく、文章全体の意味をつかむために「主語・動詞・修飾語の関係」を捉える練習を体系的に行う。</li> </ul>

		→教師が実際に問題を解きながら「私はまず動詞を探す」「次に修飾語を見て意味をつなげる」と考え方を実況し、解き方の手順を可視化。
8 学 年	<p>&lt;学びに向かう力等に関する意識調査より&gt;</p> <p>■学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している生徒が少ない。</p> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■習熟度に差があり、全体指導後の個別作業に大きな差が生じている。</p> <p>&lt;学力調査や定期テストの結果より&gt;</p> <p>■中学校1年生から本格的に学習を始めたライティングの問題に苦手意識を感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「効果的な学習方法を授業の中で明示し、実際に体験させる」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び方ミニレッスン”を組み込む</li> <li>①音読して覚える②自分でテストを作る③語源・関連語と結びつけるといった複数の方法を示し、実際に短時間で体験させる。</li> </ul> </li> <li>○「個別最適な課題を提示し、学習の進度や到達度に応じた選択を可能にする」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・選べる課題を「すらら」にて提示</li> <li>教師が「ここまで理解できた人はBに挑戦」「もう一度確認したい人はAを」と声をかけ、達成感と挑戦心の両方を引き出す。</li> </ul> </li> <li>○「書く前の準備ステップを明確にし、段階的に表現できるようにする」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主語があるか」「ピリオドをつけたか」などの確認リストを用意し、生徒が自分で書いた文を見直せるようにする。</li> </ul> </li> </ul>
9 学 年	<p>&lt;学びに向かう力等に関する意識調査より&gt;</p> <p>■「すらら」を活用して、授業内容の予習をしている生徒が少ない。</p> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■計画を立てたり、見通しをもって学習したりすることに苦手を感じている様子である。</p> <p>&lt;学力調査や定期テストの結果より&gt;</p> <p>■「場面に応じて書く英作文」の正答率が著しく低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○反転授業の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習する予定の英単語や文法知識を授業外で「すらら」を使い予習させて、授業内では活用の時間を多く設ける。</li> </ul> </li> <li>○「学習の見通しを可視化し、生徒自身が小さな計画を立てる習慣を育てる」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返りで次回につなげる</li> <li>授業の最後に「今日の授業で学習した内容」を1つ書き、次回の目標を一言書かせる。(アクティブ・リコール)</li> </ul> </li> <li>○「実際の場面を想定したモデルを提示し、状況と表現を結びつけて練習する」           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイとライティングの連動</li> <li>まずペアで「会話のやり取り」をロールプレイし、その後「同じ内容を文章で書く」活動に発展させる。場面を体験してから書くことで、自然に表現が出やすくなる。</li> </ul> </li> </ul>

## 教科：社会科

学 年	<根拠となる学力調査・授業アンケート等>	○授業改善の方策
	<p>■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	・具体的な取組
7 学 年	<p>&lt;学びに向かう力等に関する意識調査より&gt;</p> <p>■「社会の授業の内容はどのくらい分かりますか。」という問い合わせに対して「よくわかる」が100%を占める。一方、「答えだけではなく、考え方を確かめながら学習している。」という問い合わせに対して「当てはまる」という回答が0%であることから、社会的事象について理解をする一方、その事象の様々な側面や根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事象がなぜ生じたのかを考える姿勢の醸成</li> <li>・学習シートの改良と発問の工夫により、授業内において、どのような事象が生じたのかという段階から、社会的事象がなぜ起きたのかを考える段階に移行できるよう習慣づけをする。</li> </ul>

	についての理解や思考が不十分であることが読み取れる。	
8 学 年	<p>〈定期考査の結果より〉</p> <p>■ 知識・技能に関する問題の平均正答率が約73.6%である一方、思考・判断・表現に関する問題の平均正答率が40.8%程度であることから、基本的な知識技能の応用や説明に関する力の定着が不十分であることが読み取れる。</p> <p>〈学びに向かう力等に関する意識調査より〉</p> <p>■ 「社会の授業の内容はどのくらい分かりますか。」という問い合わせに対して「よくわかる」が40%、「どちらかと言えば分からない」が60%を占める。「どうやつたらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている。」という問い合わせに対して「当てはまる」が20%、「どちらかと言えば当てはまらない」及び「当てはまらない」が80%を占める。ことから、学習に対する見通しと、学習内容の理解が二層に分離しており、どのようにすると学習がうまく進むのか工夫をすることに苦労をしていることが読み取れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な知識・技能の定着の徹底             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミニゲームや小テスト、ドリル型学習の活用等により、基本的な知識・技能の定着を図る。</li> <li>・ 学習シートの改良により、学習の振り返りにおいて、キーワードを記し残す習慣づけをする。</li> </ul> </li> <li>○ 事象同士の関連性を考える姿勢の醸成             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習シートの改良と発問の工夫により、授業内において扱う事象について、どのような事象が関係するのか概念図を作成する習慣づけをする。</li> </ul> </li> <li>○ 学習の見通しと振り返りの徹底             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習シートの改良と発問の工夫により、授業内において、社会的事象の解決に向けてどうすればよいかを考えられるようになる。</li> </ul> </li> </ul>
9 学 年	<p>〈学びに向かう力等に関する意識調査より〉</p> <p>■ 「社会の授業の内容はどのくらい分かりますか。」という問い合わせに対して「よくわかる」が100%を占める。一方、「どうやつたらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている。」という問い合わせに対して「どちらかと言えば当てはまらない」という回答が100%であることから、自ら学習目標を立てて新たな社会的事象に対応する力の定着が不十分であることが読み取れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の見通しと振り返りの徹底             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習シートの改良と発問の工夫により、授業内において、社会的事象の解決に向けてどうすればよいかを考えられるようになる。</li> </ul> </li> <li>○ 探求型学習の単元の設定             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒自らが単元の学習計画を立てて学習に取り組む単元の設置により、どうやつたらうまくいくかを考えて学習に取り組み続ける体験を用意する。</li> </ul> </li> </ul>

## 教科：理科

学年	<p>〈根拠となる学力調査・授業アンケート等〉</p> <p>■ 学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業改善の方策 ・ 具体的な取組</li> </ul>
7 学 年	<p>〈学びに向かう力等に関する意識調査より〉</p> <p>■ 理科の授業を苦手、わからないとした生徒はいなかった。学習に対しても粘り強く取り組んでいるという結果が出ている。一方で、学習がうまくいかないときに学習方法の工夫をしているという設問に対して、課題が見られる。</p> <p>〈学力調査および定期考査の結果より〉</p> <p>■ 学力調査、定期考査ともに平均正答率が8割を超えており、良好な結果となっている。学力調査では基礎の平均正答率が89.6%と高く、それに対して活用の平均正答率が72.2%と差が大きかった。定期考査では結果の振り返りで、ケアレスミスが多く、時間配分や試験に向けた学習の方法に課題があるとの回答があった。</p> <p>〈授業内アンケートや授業の様子より〉</p> <p>■ とても前向きに取り組んでおり、発言も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振り返りを生かした学習方法の工夫             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りシートや小テスト、定期考査の振り返りを行った際に、次はどのような方法で学習すべきかを具体的に書させたり、話合わせたりする場面を設定し、P D C Aサイクルがしっかりとまわるような指導を行う。</li> </ul> </li> <li>○ 発展的な内容を取り入れた授業展開             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習問題での発展問題、活用問題の割合を多くする。</li> <li>・ 授業内で、単元などの終わりに学習内容が生活にどのように役立っているかなど、考えを深められるような発問を行う。</li> </ul> </li> <li>○ 演習問題の取り組み方の工夫             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見直しを含めた時間配分などを小テストや問題演習を取り組む際には、しっかりと意識させ定期考査に生かせるように指導する。</li> </ul> </li> <li>○ 科学的根拠に基づいた考察の書き方             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験の前後で目的の理解と確認をしっかりと行い、目的に沿った考察となるように指導する。</li> </ul> </li> </ul>

	<p>毎授業の理解度は、理解できている、おおむね理解できているという回答が9割程度である。しかし、実験レポートでは、タブレットを使ったレポートは写真や書き込みなどの工夫も見られる。しかし、考察は不十分であることも多く考えが深められてはいない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートの内容を基に、自分の考えが理論立て説明できているか振り返りを行う時間を設定する。</li> </ul>
8 学 年	<p>〈学びに向かう力等に関する意識調査より〉</p> <p>■理科の授業を苦手、わからないとした生徒はいなかった。学習に対しても粘り強く取り組んでいるという結果が出ている。</p> <p>一方で学習の方法では「どうやつたらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている」「学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している」「授業の見通しを立てて学習に取り組んでいる」「自分で計画を立てて学習をしている」では肯定的意見が20%、週の家庭学習時間が2時間以下が50%であった。これらより学習の調整方法や自主的に学習を進めていく力に課題がある。</p> <p>〈学力調査および定期考査の結果より〉</p> <p>■学力調査では、前年度に比べ教科の平均正答率は7.1%上昇した。一方で活用問題の正答率は23.3%減少している。また、思考・判断・表現が6.5%減少している。定期試験でも思考・判断・表現の観点での減点が多く見られた。また減点要因として計算ミスも多かった。</p> <p>〈授業内アンケートや授業の様子より〉</p> <p>■授業では積極的な発言も多く、前向きに取り組んでいる。また実験操作でも班員と協力して、次の操作を考えて行動ができるようになってきている。一方で振り返りシートの記入内容などを見ると、学習内容を理論立てでまとめることなどに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用した反転学習 いくつかの単元で反転学習を取り入れることで、主体的に学ぶ、理解する態度の育成や、計画的に学習を進める力を育成する。</li> <li>○授業展開の統一と意識づけ 理科の授業では、課題→仮説→検証（実験）→考察といった展開のもと指導計画を立てているが、なかなか生徒に浸透していない。このサイクルをもっとシンプルにして、毎時間生徒に意識させることで理科的な考え方や授業の見通しを立てて学習に取り組む力を育成していく。</li> <li>○自由進度学習を取り入れる 単元ごとに生徒自身が主体的に課題を見つけ、解決に向かって学習を進めていく自由進度型の授業を取り入れることで、思考・判断・表現の力を育成する。</li> <li>○振り返りシートの見直しと徹底 振り返りシートが書きっぱなしになってしまい、教員の評価、コメントが次の記入にいかせていない。返却時に振り返りシートの確認を行う時間を取りることで、自分の考えや学習内容をまとめる力を指導していく。</li> </ul>
9 学 年	<p>〈学びに向かう力等に関する意識調査より〉</p> <p>■理科の授業を苦手、わからないとした生徒はいなかった。学習に対しても粘り強く取り組んでいるという結果が出ている。</p> <p>一方で学習の方法では「どうやつたらうまくいくかを考えてから学習を始めるようにしている」肯定的意見が0%、週の家庭学習時間は2時間以下が100%であった。これらより自主的に学習を進めていく力や意識に課題がある。</p> <p>〈学力調査および定期考査の結果より〉</p> <p>■学力調査では昨年と比較して、全体の正答率は6.1%減少した。基礎、活用問題、また単元別において、正答率にばらつきが多かった。</p> <p>定期考査では思考・判断・表現の観点で減点が多くあった。</p> <p>〈授業内アンケートや授業の様子より〉</p> <p>積極的に受けており、発言も多い。しかし、実験の様子や発問に対しての受け答えなどから、見通しを持って行動する力、理科的な見方、考え方をする力に課題がある。</p> <p>また、学習した内容を活用して物事を考えることが苦手なようすが見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用した反転学習 いくつかの単元で反転学習を取り入れることで、主体的に学ぶ、理解する態度の育成や、計画的に学習を進める力を育成する。</li> <li>○小テストの分析と結果に応じた個別の課題演習 定期的な小テストを活用し、理解度に応じてICTを活用した個別の演習課題で復習内容を充実させる。これにより個別最適な学習指導を行う。</li> <li>○自由進度学習を取り入れる 単元ごとに生徒自身が主体的に課題を見つけ、解決に向かって学習を進めていく自由進度型の授業を取り入れることで、思考・判断・表現の力を育成する。</li> </ul>

## 教科：音楽

学年	<p>&lt;根拠となる学力調査・授業アンケート等&gt;</p> <p>■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組</li> </ul>
7学年	<p>&lt;授業の様子から&gt;</p> <p>■日頃の授業では学習内容をおおむね理解できている。鑑賞において知覚したことと感受したことを結び付けて自分の言葉で書くことが苦手な生徒がみられる。</p> <p>&lt;定期テストから&gt;</p> <p>■授業内で理解できている内容が定期テストでは解答できていない生徒がみられる。</p>	<p>○知覚したことと感受したこととの関わりについて考える時間を多く設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽から知覚したことや感受したことを表現する言葉の例を示し、参考にさせる。</li> <li>・知覚したことと感受したことを結び付けて考えることができるよう、ワークシートを工夫する。</li> </ul> <p>○学習内容を定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習や小テスト等を実施する。</li> </ul>
8学年	<p>&lt;授業の様子から&gt;</p> <p>■意欲的に取り組むことができている。創作活動で作品の条件が達成されない生徒がみられた。鑑賞において知覚したことと感受したことを結び付けて自分の言葉で書くことが苦手な生徒がいる。</p> <p>&lt;定期テストから&gt;</p> <p>■基本的な知識はおおむね身に付いている。音楽記号について、理解が不十分な生徒がみられる。また漢字の表記ミスが多い生徒がみられる。</p>	<p>○条件設定の意図を伝え、理解させる。(創作)</p> <p>○知覚したことと感受したこととの関わりについて考える時間を多く設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽から知覚したことや感受したことを表現する言葉の例を示し、参考にさせる。</li> <li>・知覚したことと感受したことを結び付けて考えることができるよう、ワークシートを工夫する。</li> </ul> <p>○学習内容を定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習や小テスト等を実施する。</li> </ul>
9学年	<p>&lt;授業の様子から&gt;</p> <p>■意欲的に取り組むことができている。技能も十分満足できる。より発展的な内容にも取り組ませていきたい。</p> <p>&lt;定期テストから&gt;</p> <p>■基本的な知識はおおむね身に付いている。歌詞の意味の理解が不十分な生徒がみられる。</p>	<p>○習熟度に応じて発展的な内容を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・齊唱から合唱に取り組ませたり、パートの入れ替えをしたり、同じ作曲者の別の作品を鑑賞したりする。</li> </ul> <p>○学習内容を定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習や小テスト等を実施する。</li> </ul>

## 教科：美術

学年	<p>&lt;根拠となる学力調査・授業アンケート等&gt;</p> <p>■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組</li> </ul>
7学年	<p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■意欲的に取り組む姿勢が見られる。授業内でのやりとりでは、教師の発問の意図が読み取れず、学習内容と離れた返答をする場面が見られた。</p> <p>&lt;定期考査の結果より&gt;</p> <p>■基本的な知識は身に付いており、満足できる範囲である。美術史や道具の扱いに関する理解をより深めさせたい。</p>	<p>○題材設定や発問についての教師の意図を明確にし、何を学び考える授業か生徒に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品が出来上がることをゴールとするのではなく、なぜこの題材に取り組むのか、どのような能力をつけることを目的としているのか順序だてて説明し、理解を深められるように工夫する。</li> <li>・美術史や道具の扱いなど、実際に取り組む題材との関連や社会との関わりを生徒が実感できるような教材を準備する。</li> </ul>
8学年	<p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■意欲的に取り組む姿勢が見られる。作品制作に対する意欲は高いが、自分の生活に結び付けて考える力にはばらつきが見られる。</p>	<p>○学習内容について、生徒が自分の生活に結びつけられるように題材設定を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工芸的な視点を大切にし、生徒が使う生活用品のデザインなどを通して発想構想の能力の獲得に結び付ける。</li> </ul>

	<p>&lt;定期考查の結果より&gt;</p> <p>■ 基本的な知識は身に付いており満足できる範囲だが、定着度合いはばらつきが見られる。道具の扱いに関する理解をより深めさせたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式根島の風土や現代社会についての内容を取り上げ、生徒が同時代性を感じながら学習に取り組めるよう題材を工夫する。</li> <li>・道具の扱いについて、端材などを用いて実際に使ってみながら、体感的により効率的な道具の使い方を習得できるように工夫していく。</li> </ul>
9 学 年	<p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■ 基本的な技能は習得できており、意欲的に作品制作を行っているが、創意工夫において思考をより深めさせたい。</p> <p>&lt;定期考查の結果より&gt;</p> <p>■ 基本的な知識が身に付いており、作品や資料から造形的な視点で作者の意図などを考察することができているが、美術史や社会的な目線を踏まえた多面的な思考には至っていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞活動を活発にし、インプットを充実させる。</li> <li>・題材の導入や、アイデア出しの段階で、教科書や資料集を用いて、表現に対する作者の意図や時代背景などを踏まえた鑑賞活動を行う。</li> <li>・作者の人生や時代背景などに関する資料を用意し、表現することへの向き合い方について考える機会を増やす。</li> </ul>

## 教科：保健体育

学 年	<p>&lt;根拠となる学力調査・授業アンケート等&gt;</p> <p>■ 学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組</li> </ul>
7 学 年	<p>&lt;単元導入時アンケートより&gt;</p> <p>■ 各単元における見通しを立て、運動観察で得た情報を活用し、課題発見や課題解決を行うこと。</p> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■ 「見通しと振り返りシート」の活用により、生徒が自らの目標に対する課題の振り返りをより効果的に行う。</p> <p>&lt;新体力テストの結果より&gt;</p> <p>■ 巧緻性や筋力の数値に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてや授業の流れを明確に提示し、1時間で生徒が目標するゴールやゴールに向けての見通しを立てやすくする。</li> <li>・振り返りシートやICTを使った振り返りを、積極的に活用する。</li> <li>・動画の活用やAIスマートコーチを活用し、より高いスキルの獲得を目指す。</li> <li>・指導者側からの目標・めあての提示だけでなく、毎時間自身で目標を設定させる。</li> <li>・ラジオ体操や腕立て伏せなどの、比較的簡単な体操や動きを利用し、課題としている能力のレベルアップを図る。</li> </ul>
8 学 年	<p>&lt;単元導入時アンケートより&gt;</p> <p>■ 各単元における見通しを立て、運動観察で得た情報を活用し、課題発見や課題解決を行うこと。</p> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■ 「見通しと振り返りシート」の活用により、生徒が自らの目標に対する課題の振り返りをより効果的に行う。</p> <p>&lt;新体力テストの結果より&gt;</p> <p>■ 全身持久力や柔軟性の数値に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてや授業の流れを明確に提示し、1時間で生徒が目標するゴールやゴールに向けての見通しを立てやすくする。</li> <li>・振り返りシートやICTを使った振り返りを、積極的に活用する。</li> <li>・動画の活用やAIスマートコーチを活用し、より高いスキルの獲得を目指す。</li> <li>・指導者側からの目標・めあての提示だけでなく、毎時間自身で目標を設定させる。</li> <li>・ウォーミングアップにストレッチやランニングを取り入れ、課題としている能力のレベルアップを図る。</li> </ul>
9 学 年	<p>&lt;単元導入時アンケートより&gt;</p> <p>■ 各単元における見通しを立て、運動観察で得た情報を活用し、課題発見や課題解決を行うこと。</p> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■ 「見通しと振り返りシート」の活用により、生徒が自らの目標に対する課題の振り返りをより効果的に行う。</p> <p>&lt;新体力テストの結果より&gt;</p> <p>■ 全身持久力や筋力の数値に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてや授業の流れを明確に提示し、1時間で生徒が目標するゴールやゴールに向けての見通しを立てやすくする。</li> <li>・振り返りシートやICTを使った振り返りを、積極的に活用する。</li> <li>・動画の活用やAIスマートコーチを活用し、より高いスキルの獲得を目指す。</li> <li>・指導者側からの目標・めあての提示だけでなく、毎時間自身で目標を設定させる。</li> <li>・ウォーミングアップに筋力トレーニングやランニングなどを取り入れ、課題としている能力のレベルアップを図る。</li> </ul>

教科：技術・家庭（技術分野）

学年	■学力調査の結果・授業アンケート等からみられる課題	○授業改善の方策 ・具体的な取組
全学年	<p>&lt;学びに向かう力等に関する意識調査より&gt;</p> <p>■学習の理由より</p> <p>「分かることやできることが楽しいから」「将来の仕事や生活に役立つから」の肯定的意見が100%であることから、学ぶことへの意欲が高く、授業で学んだことを将来や社会でどう生かされているかという視点をもちたいと感じる生徒が多いことが分かる。</p> <p>しかし、「学校の学習で人に負けたくないから」は肯定的意見が33.3%にとどまっていることから、個の学習を大切にしていると捉えられる反面、競争意識が低いために他の生徒からの刺激を受けて改善していく意識が低いとも分かる。</p> <p>これらのことから、学習することへの楽しさを感じさせる授業、学んだ内容がどのように将来や社会で生かされているかという視点をもたせた授業展開をしていくことがさらなる学習意欲の向上につながると考えられる。</p> <p>また、本校は受検への意識が低いことから学習の競争意識の低さにつながっているという課題が考えられる。</p> <p>■学習の進め方より</p> <p>「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる」では肯定的意見が100%、「分からぬことが多い」とあっても、学習を続けるようにしている」では肯定的意見が88.9%であることから、粘り強く学習に取り組むことができていると分かる。しかし、「どうやったらうまくいくかを考えてから学習を始めるようになっている」「学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している」では肯定的意見が33.3%であることから、学習の調整力の改善が今後の課題であることが分かる。</p>	<p>○学習内容と社会のつながりや、将来の活用場面など学ぶ意義を感じさせる授業展開の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で扱った内容を社会ではどのように生かされているか具体例として紹介することや、それを生徒に考えさせたり、調べさせる授業展開を取り入れる。</li> <li>・授業展開では、ゲーム形式を取り入れるなど競争意識を育て、互いに刺激し合い、学習意欲を向上させていく工夫を取り入れる。</li> </ul> <p>○学習の調整力を向上させる工夫を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業で行っている振り返りシートでは、製作で上手いかなかつた作業をどのように工夫して改善するか、製作計画と進捗状況を比較して次回の活動の到達目標を立たせる等、学習の調整力を向上させるができるよう振り返りシートの記入内容を充実させる指導を行っていく。</li> <li>・授業内での生徒観察において生徒に応じて改善や工夫など学習の調整を促す発問を取り入れるとともに、それに対応した個に応じた指導を行う。</li> </ul>
7学年	<p>&lt;定期考査より&gt;</p> <p>■思考・判断・表現に関する問題では、説明や考えを問う問題で不十分な回答として減点される箇所があった。このことから、内容は理解しているが、それを十分な形で言語化することに課題があると分かった。</p> <p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>授業内の活動にとても意欲的に取り組んでいる。特に3DCADを使用した設計学習では、自主的に自宅学習として取り組む等意欲的な姿勢が強く見られた。</p>	<p>○授業展開に言語化する場面を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で考え方等を説明や発表などを通して言語化する場面を設定し、簡潔で十分な説明をすることができるよう継続的に指導を行う。</li> </ul> <p>○生徒が主体的に取り組むことができる題材の設定を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの問題を解決する木製品の製作を題材とし、製作品の使用場面や使用目的を考えさせることで、生</li> </ul>

	<p>■製作活動前の調査で小学校の図画工作での製作経験を振り返る中で「作ることは好きだが、完成した製作物を使っていない」という回答があり、題材の設定に課題が見られた。</p>	<p>徒が題材を自分ごととして捉え、製作後の使用に関して十分に想定させることでより良い製作物を製作したいと感じられる題材設定の工夫を行った。</p>
8学年	<p>＜定期考查より＞</p> <p>■思考・判断・表現に関する問題では、説明や考えを問う問題で不十分な回答として減点される箇所があった。このことから、内容は理解しているが、それを十分な形で言語化することに課題があると分かった。</p> <p>＜授業の様子より＞</p> <p>授業内の活動にとても意欲的に取り組んでいる。</p> <p>■「(国名) のエネルギー問題を調査し、それを解決するエネルギー믹스を提案しよう」という題材では、意欲的に取り組むものの、何を、どのように調べたら良いのかという場面を難しく感じることが見られた。</p>	<p>○授業展開に言語化する場面を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で考え方等を説明や発表などを通して言語化する場面を設定し、簡潔で十分な説明をすることができるよう継続的に指導を行う。</li> </ul> <p>○「何を学ぶか」だけでなく、「どう学ぶか」の学び方を育てる授業改善を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末を効果的に活用し、課題の解決に向けた調査や情報収集の場面を増やしていく。また、そこで分かった知識をどのように考えて活用していくかという場面を取り入れた題材の工夫を行う。</li> </ul>
9学年	<p>＜定期考查より＞</p> <p>■思考・判断・表現に関する問題では、説明や考えを問う問題で不十分な回答として減点される箇所があった。このことから、内容は理解しているが、それを十分な形で言語化することに課題があると分かった。</p> <p>＜授業の様子より＞</p> <p>授業内の活動にとても意欲的に取り組んでいる。</p> <p>■少人数であるため、話し合い活動のグループが固定化されている。</p>	<p>○授業展開に言語化する場面を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で考え方等を説明や発表などを通して言語化する場面を設定し、簡潔で十分な説明をすることができるよう継続的に指導を行う。</li> </ul> <p>○話し合い活動の充実化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学期は話し合い活動は生徒のみで行っていたが、グループが固定化されているため、内容の深まりに課題を感じていた。そのため、教員が話し合い活動に参加し、発問を行い、話し合い活動の内容がさらに深まるように促すような指導を実践していく。</li> </ul>

#### 教科：技術・家庭（家庭分野）

学年	<p>＜根拠となる学力調査・授業アンケート等＞</p> <p>■学力調査・授業アンケートの結果等からみられる課題</p>	<p>○授業改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な取組</li> </ul>
7学年	<p>＜授業の様子より＞</p> <p>■学習内容はよく理解できている。一方で、店頭で商品を選んだり、自分で1食分の食事を選んだりする機会がほとんどない生徒がいる。学習内容を理解することはできているが、生活に結び付いていない場面がしばしば見受けられる。</p>	<p>○学習内容と生徒の生活を関連させて、体験的な活動から知識を獲得できる授業づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>題材の導入では、自分の生活を振り返り、問題を見い出し、課題を設定する活動を取り入れることで、学習に主体的に取り組ませるとともに、生活をよりよくしようとする態度を育てる。</li> <li>題材の1/2は体験的な活動や生徒の生活と結び付ける学習活動を行い、活用できる知識（概念的な理解）を身に付けられるようにする。</li> </ul> <p>○分かるまで繰り返し学習できるように、家庭学習の手立てを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容をドリル形式にまとめ、オンライン上で生徒が分かるまで取り組めるようにする。</li> </ul>
8学年	<p>＜授業の様子より＞</p> <p>■授業内で学習内容を理解することはできているが、定期考查の結果を見ると、知識が定着していない生徒がいる。</p>	<p>○生徒の生活まで見通した授業づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>題材の導入では、生徒の生活から問題を発見し、課題を設定することで、生活をよりよくするという意識をもって学習に取り組めるようにする。</li> <li>家庭で実践する課題を積極的に取り入れる。具体的には、住まいの安全対策の方法を学習した後に、対策を見直す活動を取り入れたり、地域でよく食べられる食材を取り入れた調理実習を行ったりする。</li> <li>題材に入る前に題材に関するアンケートを実施し、生徒の生活経験などを把握した上で授業を行うようにする。</li> </ul>

9 学 年	<p>&lt;授業の様子より&gt;</p> <p>■授業内で学習内容を理解することはできるが、定期考査の結果を見ると、知識が定着していない生徒がいる。</p>	<p>○家庭分野に関する知識の定着を図るための工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ワークシートの改善。</li><li>・題材毎に知識の定着を確認する機会をつくる。</li></ul>
-------------	--	--